

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000187		
法人名	特定非営利活動法人楠の木会		
事業所名	グループホーム楠の木園		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字福富40-4		
自己評価作成日	平成29年7月3日	評価結果市町村受理日	平成29年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成29年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大切にしています。できる限り自由に、本人のペースで生活をして頂きたいと考えています。画一的な支援ではなく、個人、個人の違いを理解し、利用者也職員も共に楽しく暮らすグループホームを目指しています。毎朝ラジオ体操をし、行きたい人は散歩に行き、残りたい人はテレビでも見ながらゆっくり過ごす。外出も色んな所に行きたですね、皆で色々考えます。外食も皆さん楽しみです。それぞれが好きな物を食べ、帰りにはショッピング好きな物を買います。自分の家のように暮らしてもらいたい。遠慮せず、その人にとって此処が居心地のよい場所であるようにと努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐賀市郊外の住宅にあり、2階建ての建物の2階にホームがある。1階は障害者のグループホームで、隣接する建物には、障害者就労施設もあり連携されている。理念である「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」を実践するために、入居者の意向に沿う支援がなされており、年配の職員が多く、相談しやすい、温かい雰囲気を感じられる。男性の入居者が多く、散歩や外食等活動的で、自由な空間で自分の家のように暮らせるように努められているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」の運営理念を掲げ、利用者も職員も共に暮らし、生活の中に楽しみを見つけていこう。両者共に心豊かに過ごしていこう。と、その実践に努めている	理念をホーム内に掲示し、普段の業務の中で実践できるように心がけ、理念にそぐわない場面では、その都度理念を振り返ったり、会議で話し合いをし実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	掃除や班会などへの参加、散歩や挨拶などの交流はあるも、利用者自身の参加できる地域の行事はほとんどない。近隣より、庭の花を届けていただいたり、野菜を分けていただいたりしている	地域の清掃活動や地域の班会議等へ参加し、地域との関係づくりを積極的に行われている。地域の方がホームへ訪問し入居者との交流する機会は極めて少ない。	積極的に、地域の行事へ参加されているが、入居者が地域とのつながりを持つ機会を作り、地域の方がホームへ来てもらえるような取組を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長や民生委員さん、近隣の方々と運営推進会議で話し合い、取り組んでいるも、まだ地域への発信力があると言うには至っていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや近隣、地域役員、利用者の家族の方々に参加いただきサービスの内容や外出支援、行事等についての報告、また意見交換の場として、サービスの向上に生かしている	2ヵ月に1度開催されて、事業報告や情報交換等が行われている。議事録は、家族へ配布し情報を共有されている。会議での意見等はサービス向上に活かすように努められている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川副町の健康保険センターにて毎月開催されている川副ネットワークに参加し、情報交換及び研修等により、協力関係を築くよう取り組んでいる	障害者施設もあり、行政との連携は幅広く行われている。「川副ネットワーク」に参加し情報交換や相談等、協力関係を築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルの作成や各研修により、身体拘束に関する知識の習得に努めており、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。夜間のみ玄関の施錠をしている	ホームは、日中施錠しておらず、身体拘束は行っていない。研修に参加し、言葉での抑制についても日頃からしないように意識的に取り組まれている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	その人らしい生活を支援するという介護の目的を、職員一人ひとりが理解している。利用者の尊厳を守ることをしっかりと意識し、無意識のうちに利用者を傷つけることのないよう注意と努力をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度は複雑で、理解の困難な部分が多くあり、学んではいても有効に活用できる、又支援するためには、更に学びその関係者との話し合いなくてはまだ未熟であろうと思われる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、その内容を十分に説明し納得いただいている。改定の際においても、文書にて提示説明し疑問や質問には応えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が遠慮せず、何でも言える環境でありたいと思っている。家族の意見、要望も同じである。頂いた意見は、反映させることのできるものであれば、できる限り反映させていこうと努力している	普段の会話の中で、要望を聞いたり、表情をくみ取るように努められている。家族の面会が少ない為、電話で要望を聞いたり、便りで生活状況を伝え、意見を表せる機会を設け運営に反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は反映させるべきものもあれば、検討の余地のあるものもある。意見が言えない環境ではないが、全て反映させるのは困難な状況である	普段の業務の中で、疑問に思う事、提案をその都度聞き、さらに職員で話し合い、できるだけ反映できるように取り組まれている。内容によっては、法人での会議で、話し合いの内容を代表者へ伝える機会を設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備の向上に努めようとの意思はあるが、成果としては不十分だと感じられる。一層の取り組みを目指している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に関しては、その機会の確保に努めている。職員一人ひとりに研修の機会を提示し、更にケアの質の向上を目指していきたいと思っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川副ネットワークの勉強会や講習会に参加し、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に生かせるよう取り組んでいる		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴することから始め、ゆっくりと本人のペースに合わせた対応を心がけている職員自身が自己開示することも信頼関係構築の上では必要なことだと理解し、その関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談しやすい雰囲気や環境作りに心がけており、要望等にはできる限り対応できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人がどんな生活を望んでいるのか、又その生活を実現させるためには何が必要なのかを本人、家族と共に考え、必要な支援に結びつけるよう努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人と言った関係ではなく共に生活をする同じ対等な人間としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況、状態に応じて家族との話し合いの機会を持ち、一緒に考えていく関係を築くことを目指している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方等が気軽に遊びにきていただけるよう、挨拶や声かけ、又その環境雰囲気作りに努めている	友人や家族が、訪問しやすい雰囲気をつくるように努め、なかなか面会に来ることができない家族へは、近況を報告し、関係が途絶えないように支援されている。馴染みの所へ買い物へ行く等、積極的に取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが気を使わず、自由に暮らしていくことを大切に考えている。一人ひとりが重要な人であるとの認識が孤立を防ぎ、支え合う関係になると考え、そのような関係作りの支援に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要時はいつでも相談にのったり、支援できる状態であろうと努力している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの価値観、考え方の違いを認め、その人が自分らしく過ごせるよう、寄り添い 支援していくよう努めている	一人ひとりの希望、意向は日頃の生活の中で、言葉や表情で把握するように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中からの読み取りや、本人、家族との会話を通して、その人のこれまでの暮らしや習慣等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で、一人ひとりの過ごし方を見守り、コミュニケーションをとりながら、その人の「今」の状態や変化を見逃さないよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月又は利用者の状態の変化等により必要に応じてケア会議を行い、本人への説明を行い、共に目標に向かっていけるよう努めている。 モニタリングは情報を共有し、職員全員で取り組み、次の介護計画に活かしている	日頃の状況を職員全員で話し合い、本人、家族の意向を反映し、現状に即した介護計画を作成されている。状態変化が生じた時は、必要に応じて見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のきづきは口頭屋記録、申し送り等により職員間での情報共有を図り、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や状態に対応しながら利用者にとって今何が必要なのか、何を必要としているのかを見極め、柔軟に支援できるように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護の手続き等において、民生委員の方や役場の方との協力のもとで、支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理のため月2回の訪問診療、他に気になることや、心配なことがあればすぐに相談できる状況にある。緊急時の連絡、対応の仕方等連携をとっている	希望に応じて、往診や病院受診ができ、受診時家族が付き添えない場合は、職員が付き添われている。かかりつけ医との情報共有が行われ適切な医療が受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者の様子や体調、その変化等看護師に伝え、相談している。指示を受け、適切な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、その利用者の情報を病院の方に伝え、入院後の経過については病院より情報を聞き、退院時には退院後の注意点の説明を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、看取りの説明を行っている。重度化したり、終末期と意識できるような場合には、家族や本人の意思の確認を再度行い、医師との連携をとるようにしている	看取りは行われていないが、研修に参加し理解を深めるように努められている。重度化や終末期については、その都度、家族へ意向の確認をしながら支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対応できるようにマニュアルや緊急連絡網を整備しているが、実際の応急手当や初期対応に関してはまだ十分とは言えず、訓練を必要としている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川副ネットワークによる防衛マニュアルに沿った訓練を実施しているが、全職員がしっかりとした避難方法を身につけるには更なる訓練が必要である	年2回消防署参加にて、日中ではあるが、夜間想定火災訓練が行われている。夜勤専門の職員の参加なく、地域の方と協力体制が十分に築かれていない。又他の災害対策について十分とは言えない。	夜勤専門職員の訓練参加及び、風水害等の対策について避難経路や場所の確認、消防団等地域の協力体制の構築が望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を一人の人として尊重し、誇りやプライバシー、羞恥心等に配慮している。又気づかず利用者を傷つけたりすることのないよう言葉かけや態度、対応に十分注意するよう努めている	言葉かけ、態度等不快に感じられないように心がけ、日頃の業務で気づきをその都度伝え、意識を持ち、改善するように努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮をせずに、自由に自分の思いを表せるよう、その為にはどんな環境が必要か、どんな働きかけが必要かを、個々の職員が考え、支援していくように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの主人公は利用者本人であることを、職員はしっかりと理解し、ケアする側を優先することのないよう日頃より心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や靴等、日用品はできるだけ本人と買い物に行き、好みの物を選んでもらうよう支援している。普段「何でもいい」と言う利用者も買い物の最中はあれこれと選び、笑顔が見える		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝ってもらえる事は、声かけし、配膳や後片付け、食器洗いをしてもらっている。野菜等の下準備も出来ることは、職員と一緒にしている	メニューを考えたり、配膳や片づけ等一緒に行い、一人ひとりの好みや力を活かし、嗜好品の制限もなく食事を楽しむ支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量や残量を確認し、その日の体調に配慮しながら支援をしている。水分に関しては、自由に好きな時飲める状況であるが、職員からの声かけにも心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの声かけ、誘導、支援を行っている。必要な人には、歯科の訪問診療を受けてもらっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、排泄の自立はその人の尊厳に深く関わる部分なので、職員の倫理観又羞恥心への配慮等の向上も目指し支援している。	排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせ、自立にむけた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や冷たい水を飲むことで胃腸に刺激を与えたり、歩くこと、動くことで蠕動運動を促したり、腹部のマッサージを行ったりしている。出来るだけ薬に頼らない改善策を検討している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望とペースに合わせている。シャワーをあびてから浴室に入る人、先に温まる人、体の洗い方もそれぞれ…個々に添った支援を心がけている	週3回入浴を実施している他、適宜、希望や状況に応じた支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で自分の体調が分かる、セルフケアの大切さを重視している。本人の感じていることを慮ることができ、その環境を提供できるよう支援する努力をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬の目的や作用を理解しているとは言いが、毎日の準備の段階で、処方箋に目を通したり、分からないことがあれば薬の情報の確認をしたりと、努力している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居する前の個々の生活を知り、何が好きで、何に興味があったのか…個々にいても、それまでしていたことがあれば、出来るだけ続けていけるようにとの思いで支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により時間が許せば、できる限りその希望に添うようにしている。それぞれに行ってみたい場所を探し、提案してほしいと思っている。利用者と職員も共に、色々な場所に出かけ楽しむことを目標にしている	散歩が日課で行われ、定期的買い物や外食等、入居者の希望にそって対応されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に数度買い物支援をしているが、一人ひとりが、自分で選び、金額を見ている。「高いねえ」「安かねえ」と言い合い、レジで一人ひとり会計をする。会計自体は職員が横で支払いをするが、自分のお金を使っているとの理解はある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、それに添う努力と支援をするが、家族よりの拒否があったりと困難な場合も少なくない。それでも、友人との交流を望む方等にはそれに応える支援を心がけている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自然にと考えている。低下はしているかもしれないが、本人の持つ機能を少しでも活用するために、過剰な暖房や冷房は避け、自然光や自然を感じて生活してもらうよう工夫をしている	季節に応じて空調の調節を行い、音楽やテレビ鑑賞等リラックスできる環境づくりがなされている。一方家具の破損がみられ、臭いもこもりがちである。	共用空間でもある為、家具の破損は怪我の原因にもなるので改善が望まれる。又臭いは現状に慣れがちで気づきにくいので、臭いがこもらない工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あまり広い空間があるとは言えないが、それぞれに自由に、好きに過ごせるように配慮している。一人で部屋に居たい時もあれば、皆と話したいときもある。本人次第の暮らしの提供をと思っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や、使い慣れた物を持って来て頂いていいことを伝えているが、家族や身寄りの無い方も多く、必要な物等は本人と相談しながら買い、少しでも心地よく過ごせるようようと努めている	持ち込み制限なく、仏壇等使い慣れたものを持ち込み、家族や職員と一緒に買い揃え、その人らしい居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や廊下の手すり、ソファの位置等に配慮し、出来るだけ安全に安心して過ごせるよう、自立を支援できるよう工夫している		